

アベノミクスと雇用—DSGE モデルを用いたモデル分析—

北九州市立大学 林田実

関西学院大学 安岡匡也

内閣府 難波了一

東洋大学 大野裕之

はじめに

2012 年末に成立した第 2 次安倍内閣の下で、アベノミクスと通称される、経済政策が展開されている。アベノミクスは三つの主要な経済政策、すなわち、①大胆な金融政策、②機動的な財政政策、③成長戦略からなるが、なかでも、①に属するインフレターゲットの導入、日銀による国債の大量買い上げ等の効果は大きく、2015 年 6 月の段階で日経平均株価は 2 万円の大台を維持しており、今後も、企業収益の改善が見込まれている。現在では、この良好な経済動向が雇用、消費の拡大につながるかに注目が集まっている。ところで、アベノミクスと呼ばれる経済政策の背後には DSGE と呼ばれる比較的新しいマクロ経済学が控えている。そこで、本稿では、DSGE モデルを用いて、アベノミクスと雇用の関係を実証分析することにした。

モデルと推定

New IS-LM モデルに労働組合の存在によってもたらされる構造的失業を考慮したモデルを考え、雇用の変動を DSGE モデルで分析できるようにした。より具体的には、労働組合に以下のような効用関数を想定した（ここで、 N_t は雇用率、 w_t は実質賃金率、 u_t は失業給付である）。

$$V_t = N_t w_t + (1 - N_t) u_t$$

労働組合は V を N について最大化する。このとき、労働需要関数を代入して最適化すると、次のような、組合の要求する賃金率が得られる（ T は失業給付の財源調達のための一括税）。

$$w_t^u = \frac{u_t}{1 - \alpha} = \frac{T}{(1 - \alpha)(1 - N_t)}$$

これを、定常均衡の近傍で対数線形化して、モデルに組み込んだ。最終的なモデルは、10 本の方程式からなる DSGE モデルである。そのモデルをベイズ推定したところ、おおむね妥当なパラメータ推定値を得ることができた。また、推定されたインパルスレスポンスによると、金融緩和ショック、正の技術ショックに対して、雇用・株価・賃金は増大するという結果が得られた。

シミュレーションおよび展望

インフレターゲットを $E_t \tilde{\pi}_{t+1} = E_t(\pi_{t+1} - \pi^*)$ において、 π^* が上昇したと考えれば、 $E_t \tilde{\pi}_{t+1}$ にマイナスのショックを導入することと等価になる。このようなショックをモデルに与えたところ、伝統的な金融緩和に比べて、雇用・株価・賃金はより増大した。今後の展開としては、このモデルを出発点として、①課税帰着、②社会保障などのすぐれて実際的な問題に切り込んでいきたい。